

浅田彰

田中康夫

今更の憂国談

「観光マインド」発言から、
北朝鮮暴発の可能性、
日本の危機管理の危うさ、
フランス大統領選挙まで。

東京・東田端にある日本初のユニバーサルシアター、

『CINEMA Chupki TABATA』を訪れた田中・浅田両氏。

視覚障害者や小さな子どもを連れたママも映画を楽しめるよう、
さまざまな工夫が凝らされた映画館の設備に感心しつつ、
美術館や図書館など文化のあり方について語り始めた。

photographs by Kitchen Minoru text by Kenjiro Matsui



憂国呆談

season 2 VOLUME 84

必要なのは観光マインド？ 文化財保護のあり方。

浅田 今日東京の東田端にある「CINE MA Chupki TABATA」って小さい映画館で対談することに。「Chupki (チュプキ)」ってのはアイヌ語で自然の光を意味するそうだけど、目の不自由な人のために映画の場面状況を説明する音声ガイドがイヤホンで聞けるし、小さな子どもや発達障害の子どもが親と一緒に観賞できる個室も設けられている。映画は健常者だけのものじゃないってことだね。

そういえば、J.L.ゴダール監督はECMレーベルの音楽をよく引用するんで、逆にECMが彼の映画『ヌーヴェル・ヴァーグ』の音だけまるごとCDにしたのがある、目の見えない人が映画館でこの映画を体験した感想がライナー・ノートに載ってた。さらに思



い出せば、ウクライナ的全寮制聾啞学校に放り込まれた少年が、暴力と性の渦巻くトライバル(部族的)な社会の中で生きるさまを描いたスラポシユピツキー監督の『ザ・トライブ』って映画は、全編ウクライナ語の手話だけで字幕なし、でも稲妻のように飛び交う若者たちの手話を見てるだけで彼らの感情が伝わる——っていうか、簡単にわからないことが実感できる。こういう試みは重要だと思うね。

田中 本当だね。聴覚障碍の克服には早期発見と早期訓練が大切なので、乳幼児版の『さくこの教室』を導入したのも思いついたよ。夜泣きはするけど1歳を過ぎててもウチの子はなかなか喋り出さないし、話しか

けても無反応だわ、と1歳半になって医師に相談して初めて、耳が不自由だったと気づく不幸を防ぐ上でも、出産から間もない段階で聴覚検査を行うべき。なのに、国は義務付けていない。そこで知事とき長野県の独自事業として導入した。そうして、奈落の底に落とされた母親と乳幼児の元へ養護教諭のOBが毎週訪問してケアするのと並行して、南北220キロもある県だけど、月に2回は長野市と松本市のいずれかの聾学校へ親子で来てもらうようにした。6歳で入学してからでは遅いんだ。聴覚や喋りの訓練を受ける間、持参したお茶菓子や野菜を食べながら、同じ境遇に直面した母親たちが語り合える部屋を設けた。自分たちだけが取り残されているわけじゃない、と前を向いてもらえる手助けこそ大切。

「自助・共助・公助」の美名の下に被災地でも社会福祉でも弱き者を切り捨てる一方で、「寄り添う」という言い回しが政治家やメディアの常套句だけど、それこそは偽善。24時間「寄り添える」わけもない。ハコモノ行政と違ってわずかな予算でも数字に換算できない勇氣と希望を一人ひとりに与えられると考えたのね。

話を映画と田端に戻すと、僕が思春期を過ごした松本には中劇シネサロンという当時日本で一番小さな、試写室のような映画館があって、高校の授業をさぼって『イージー・ライダー』や『激突!』なんかを観たよ。

大学時代に丸の内北口から駒込病院、

合える部屋を設けた。
自分たちだけが取り残
されているわけではな
い、と前を向いてもら
える手助けこそ大切。



田端駅を経て隅田川の中州に町工場が建ち並ぶ小台、そして荒川土手を経て、今は東武スカイツリーラインと名前が変わった伊勢崎線の西新井を結んでいた東43系統の都バスからボケケツと車窓の景色を眺めるのが好きで、このあたりは懐かしい場所。JR東日本の東京支社のビルも駅前出现过して、ずいぶん変わったね。乗降客や地域住民の買い物も食事も宿泊もすべて駅構内で完結させる「走る不動産屋」路線をJR各社は突っ走り、全国の駅前商店街が空洞化していく中、東田端商店街は踏ん張ってると感じたよ。

浅田 JR東海はリニア新幹線建設へと突っ走って、車内誌の『ウェッジ』でも大々的に宣伝してるけど、築地市場の移転問題についても、「安全」は科学的に確認されてるのに民衆が「安心」にこだわるのは愚かだっという移転促進の論陣を張ってる。しかし、低線量放射線被曝の問題と同様、安全基準ってのはほとんど政府の審議会なんかでの政治的妥協の産物に過ぎない。そもそも、今まで反証されてないけれど後で反証されるかもしれない、それを認めるのが科学的なことなんで、審議会では基準が決まったから絶対だって言った瞬間にそれは科学信仰って名の非科学的迷信になる。



田中 科学は自然現象だから二度と同じことは起きないし、経済も歴史現象だから二度と同じことは起きないのに形式知で類型化して「絶対視」するのは、机上

の空論だった社会主義の計画経済の失敗から何も学んでいない。

浅田 サンク・コスト(埋没費用)論で言え、巨費を投じて豊洲市場を造っちゃったからには使われないわけにいかない、と認めることになっちゃう。

田中 まったくね。ダムがないと洪水になっちゃうと計画されたのに63年間も造られず、ようやくと今から2年前に本体着工した八ッ場ダムに象徴される不要不急な公共事業も、途中で止めた場合に付け道路等にそれまで投じた資金や労力が無駄になるから、そのまま続行して完成させたほうが「お買い得」というサンク・コストと称するマルチ商法みたいな机上の空論がまかり通っている日本は、天動説の時代の科学を笑えない。

浅田 他方、松坂屋の跡地にできた銀座SIXに行ってみたら、普通のデパートと差別化するため高級ブランド店が並び、葛屋のイヴェント・スペースでは杉本博司・蜷川実花・名和晃平の「感覚の庭」と称する展覧会も開かれて、華やかではあった。前に公開対談をやった代官山店を高級化した感じ。ネット配信が進んで、CDやDVDのレンタルだけではやっていけないから、文化サロンにして体験を売ろうってことだろうけど、都心ならともかく、全国展開の事業としては難しいだろうね。

田中 しかも、民間感覚と称して運営を請け負った武雄市図書館や海老名市立中央図書館に、ゾッキ本としての価値すらない古い実用書を大量陳列して生まれた利ザヤが原資だとしたら、何をかいわんや。Hulu

やNetflix、Fire TVに侵食される業界の雄が抱く危機感の反映が、その程度の生き残り策だとしたら哀しいね。

浅田 パブリックな図書館が、市場の流行から距離を置いて、一見地味でも長く読み継がれる本をちゃんと揃えとくのは大事なこと。何でも民営化すりゃいいってもんじゃない。

田中 山本幸三地方創生大臣が、「いちばんのがんは文化芸術員。観光マインドがまったくない。一掃しなければ駄目だ」と発言して批判された。そりゃあ旧態依然の学芸員だって中にはいる、教員だってそう。だからこそ目利き・鼻利きのコニサーを育てることが大切。以前に浅田さんが連れて行ってくれた『東京ステーションギャラリー』の「ディスクカバー、ディスクカバー・ジャパン『遠く』へ行きたい」みたいな企画を実現できる学芸員と、そうじゃない学芸員もたしかにいるからね。

浅田 ただ、あえて言えば、学芸員は現在の市場に対応するんじゃない未来の世代に文化遺産を残すのが一番の仕事なんだから、保守的でもいいんだよ。国宝の建物で飲食を伴うパーティは原則的にできない。当たり前じゃない？ 逆に言えば、ルーヴル美術館も故宮博物院も敷居が高いからこそあれだけの観光名所になってるんで、「観光マインド」を發揮してそれをデザイン・ブランドやユニバーサルスタジオみたいにしちゃったら価値がなくなっちゃう。

田中 1900年のパリ万博に合わせて建設されたオルセーの駅舎を美術館として再生したのは大いに結構。他方で、木造駅舎としては都内最古の原宿駅の表参道口をオリピックまでに全面改築するのはダメでしょ。正々堂々と憲法改正の具体的内容を

国民に説明するならともかく、オリンピックを迎えるので憲法改正、とレヴェルの低い発想で五輪を政治利用するのと同じ穴の貉だよ（苦笑）。とまれ、日本の頭の中の「観光マインド」って、オリンピックを迎える「2020年を目前に『国民のトレンド』を変えていくことで50年後にも1億人程度の安定的な人口構造を保持することができる」と2014年6月に閣議決定したのと同じお花畑なオツムなわけよ。サンク・コスト論を信奉する一方で、内閣官房参与の浜田宏一に代表されるリフレ派経済学者の出口なき金融緩和も礼賛する連中に限って、国立文楽劇場で人形浄瑠璃を演ずる文楽協会への補助は意味がないとか、視野狭窄な物言いをするんだよ。いやはや。浅田 むしろ、この映画館みたいに儲かなくても大切な事業こそ、国が率先してやるべきなのにね。

北朝鮮が暴発？ そんなことはあり得ない。

田中 「軍事的な解決に向かえば信じられ



田中康夫

たなか・やすお ●1956年東京都生まれ。一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。最新刊は『33年後のなんとなく、クリスタル』。http://tanakayasuo.me

ない規模の悲劇になるだろう」とジェームズ・マティス米国防長官が冷静な発言を続けているのに、日本の政治家とメディアだけが明日にも北朝鮮が暴発するかもしれないと煽っているのはナンなんだ。航空幕僚長を務めた田母神俊雄ですら4月29日にツイッターで「騒ぎ過ぎである。北朝鮮が日本に向けて突然ミサイルを撃つことはないし、アメリカが北に対する先制攻撃をすることもない。3か月もすれば私の言っていることが正しいことが証明される」と、ニヤンと我々と同じ意見を述べている。軍事アナリストの小川和久や田岡俊次も同意見なのに今回、こうした冷静で的確な見解をメディアが紹介しないのはお口アングリだよ。

浅田 東京メトロがミサイル発射に怯えて運行を一時停止したのは驚いた。核実験はやってても、ミサイルに核弾頭を載せる段階にはきてないんで、弾頭なしのミサイルを撃てるだけなのに。逆に言えば、核ミサイルがでなきゃと、THAAD（ロード）を含めた迎撃システムを整備しても

複数のミサイルを漏らさず撃ち落とすのは難しい。敵策源地攻撃と称しこちから敵のミサイル基地を先制攻撃するのも、憲法違反であるばかりか、やはり確実に敵ミサイルを全滅させられるか疑わしく、無駄に軍拡競争を招き緊張をエスカレートさせるだけ。

そもそも、金正恩がイデオロギイ的大義のためには自殺的攻撃も辞さない人間だなんて考えるのは、過大評価も甚だしい。自分の保身しか考えてない彼がそんなことをするかつての。

田中 「北朝鮮も冷徹な計算のもとに行動している。先にミサイル攻撃をすればどのような結果になるか、彼らもわかっている。だから発射実験以上のことはやらない。先に攻撃すれば北朝鮮はつぶれることになる」と田母神が別のツイートでつぶやいたよ。ネットウヨも産経新聞も、彼の爪の垢を煎じて飲みなさい（爆笑）。

危機感を煽る日本のメディアは、岸田文雄外務大臣がぶら下がりで「朝鮮半島には6万人近い日本人がいる。その安全確保、いざというときには帰国をしつかりと考え」と語り、菅義偉官房長官も会見で「いかなる事態にも対応できる万全な態勢を取っている」と発言したけど、その「万全な態勢」の具体的準備状況の説明を求めた記者はいなかったんだよね。

福島第一原子力発電所が炉心溶融（メルトダウン）した「3・11」の際に米軍の家族が関東圏から一斉に国外や西日本に退去したように、実はアメリカにはNEO (Non-combatant Evacuation Operations) と呼ばれる綿密な「非戦闘員疎開作戦」が存在する。ヴェトナム戦争のサイゴン陥落の教訓から作られた避難計画で、国務省が



グローバル資本主義のトップ・エリートで、清新でソフトなイメージのトピクリップで感じ。（浅田）

主導し、国防総省統合参謀本部議長が指揮する。米国籍の一般市民が約12万人在住している韓国でも年2回、訓練を行っている。昨秋はソウル南方のキャンプ・ハンフリーから沖繩の米軍基地にC130輸送機や大型ヘリで在韓の非戦闘員を移送した。搭乗優先順位や出国手続きを定めた計画は、家族の一員として犬と猫も一緒に連れ出せるきめ細かさで、化学兵器攻撃に備えて防毒マスクを着用し、防空壕に避難する行動計画も記されている。

朝鮮半島には6万人近い日本人がいるんだから、常に100パーセント、偉大な同盟国ニッポンと共にある」と述べた。宗主国「の大統領から、NEOのマニユアルを譲り受けるべきだよ。

それにしても「弾道ミサイル落下時の行動について」と題する政府広報には驚いた。「地面に伏せて頭部を守る」窓のない部屋に移動する」って、竹槍と防空頭巾の時代かよ(涙)。しかも、全国の自治体に住民避難訓練の実施を求める一方で「発射の兆候を事前に把握するのは困難」と「予防線」を張る「万全な態勢」(苦笑)。実際問題、約9分でスカッドERが男鹿半島沖に落下した3月6日も、日本周辺を航行する船舶へは13分後、飛行機へは29分後の情報伝達だったと5月号の対談でも話したけど、菅官房長官も「発射から10分以内に日本に到達する。事前通告もなく、その範囲内で国民に情報提供するのは不可能に近い」と正直に告白しているんだ。

ドナルド・トランプ大統領の「力による平和」という言葉が大々的に報じられているけど、圧力には軍事だけでなく、言葉も文化も、経済も含まれる。天災の地震や雷と違ってミサイル発射は「人災」だから、



「だから田母神の」託宣を、自称「保守」の連中は神棚に飾りなまい(苦笑)。(田中)

その発生を防ぐためにこそ、言葉による外交圧力を駆使すべきなんだよ。

浅田 文在寅が韓国新大統領に選ばれたのは、前任者の朴槿恵に代表される政界と財閥の癒着への反感が主な理由だろうけど、これまでの保守政権の北風政策が功を奏さなかったんだから、彼が金大中・盧武鉉の太陽政策を受け継ごうとしているのはおかしくない。アメリカのトランプ政権も、軍事的圧力をかけつつ、核放棄と引き換えに体制存続を保障する交渉をしてもいいって言うてる。圧力のかけ方は乱暴すぎて、原子力空母カール・ヴィンソンが北朝鮮近海に向かっているって言ったときには、インドネシア近海でオーストラリアと演習中、最近やつとこつちに来た始末だけだ。

田中 だから田母神のご託宣を、自称「保守」の連中は神棚に飾りなさい(苦笑)。

ポピュリズムに、ブレーキはかかったか?

浅田 ところで、そのトランプもジェームズ・コーミー連邦捜査局(FBI)長官を

更迭したんでまた大問題に。

去年の大統領選挙中、FBIはヒラリー・クリントンのメール問題のみならず、トランプ陣営とロシアのつながりも捜査したのに、コーミーは前者だけを公表して、トランプを利した。たしかに更迭に値する。トランプ側近も、「ヒラリー問題の扱いを理由に更迭を進言した司法省の判断に従った」って説明してた。ところが、トランプが、事実上ロシア問題の扱いを問題視して自分が更迭したって言っちゃったわけよ。となると、よほど隠したいことがあるんだろうとしか思えない。

田中 確かにね。ところが、ここがアメリカのチェック&バランスのすごさで、司法省のロッド・ローゼンスタイン副長官がロバート・モラー元FBI長官をこの問題を「解明する特別検察官に任命した。トランプからすれば、俺が司法長官に指名した最右派のジェフ・セッションズはいったい、何をやってるんだと怒り心頭だろうけど、アメリカの仕組みではローゼンスタインを更迭はできても、モラーの解任は不可能。大

統領選でトランプ陣営の顧問を務める一方、トルコの代理人としてのロビー活動で浮利を得ていたマイケル・フリン前国家安全保障問題担当大統領補佐官が、対露制裁問題でロシアのセルゲイ・キスリヤク駐米大使とどんな握り合いを水面下でしていたかも含めて、「トランプ・ロシアゲート」の展開は注目だ。

浅田 セッションズもロシアと接触があったのがバレてこの件には関わらないって言わざるを得なかった、その隙を衝かれたわけだ。しかし、トランプもひどいけど、リンクを繰り返して仮にも選挙で選ばれた大統領を追い落とそうとする情報機関等の「影の国家」も問題だと思ふよ。

他方、ヨーロッパでは昨年末からオーストリアやオランダの選挙で極右が敗北(きわどい結果だけど)、フランスの大統領選挙でも国民戦線のマリヌ・ル・ペンを中道のエマニュエル・マクロンが制した。マクロンは投資銀行で巨額の報酬を得、37歳の若さで経済相になって規制緩和を推進した、グローバル資本主義のトップ・エリートで、いわば清新でソフトなイメージのヒラリーって感じ。

国民戦線が過去の極右のイメージを払拭しきれなかった上、イギリスのEU離脱やアメリカのトランプ当選の後の混乱を目にして「フランスは文明国だから英米のような野蛮な過ちは犯さない」っていうリアクションが強くなったから、辛うじて勝てたんじゃないか。ドイツを中心とする緊縮財政派を説得して、EU全体を中道に引き戻せれば、ヨーロッパの救世主になれるかもしれないけど、国民戦線に対して全党派を糾合するためとはいえず、政策はあまりに玉虫色、楽観はできないな。

浅田 彰
あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。
京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。
83年に出版されたデビュー作『構造と力 一記号論を超えて』はベストセラーに。

